

# 話し合い活動におけるICTの効果的な活用のための練習プログラムの開発

## —主体的に合意形成を図る児童の育成を目指して—

長期研修生 崎須賀 悠

### 1 研究の目的

一人一人の意見の良さを生かしつつ、限られた時間内で合意形成が図られる話し合いを行うためには、全員が主体的に話し合いに参加した上で、互いの意見を効率的に共有したり、検討しやすく整理したりして話し合う必要がある。そこで、即時的な意見の共有ができるクラウドサービスや、視覚的に分かりやすく意見を整理できるシンキングツールを活用できる、1人1台端末等のICT機器の良さを生かし、主体的に話し合い活動を進められるようになるための取組を、練習プログラムと称して、協力校の5・6年児童を対象に実践することとした。学級活動における話し合い活動の授業実践を通して、練習プログラムの成果がどのように発揮されたかを見取ることで、練習プログラムの有効性を検証することを目的とする。

### 2 研究の内容

#### (1) 練習プログラムの開発

合意形成を図る話し合い活動の過程の中で、互いの意見を伝え合う場面や、出された意見を整理し、結論に向けて収束させる場面において、児童が1人1台端末等を効果的に活用できるようになるために、以下の三つの取組をまとめ、練習プログラムとして開発した。

①「意見の共有及び整理・収束練習」は、クラウドサービスやシンキングツールを活用して効率的に意見を共有したり、分かりやすく意見を整理したりするスキルを身に付ける取組である。週に1回程度、朝学習の15分間において、様々なテーマについての話し合いを実施し、端末等を使った意見の共有や整理、収束の経験を積み重ねていけるように設定した。

②「タイピング練習」は、スムーズな文字入力による円滑な意見の提出を行うなど、端末操作スキルの土台作りのための取組である。タイピングサイトを利用して、週に3日以上を目標に、各自の都合のよい時間の中で日常的に取り組むように設定した。

③「情報モラル学習」は、クラウドサービスやインターネットサイトを安全に利用したり、よりよい端末利用について考えたりするための知識の獲得を目指した取組である。毎週末の家庭学習として、「えひめっこ情報リテラシーアプリ」を活用した情報モラルについての課題に取り組むように設定した。

#### (2) 練習プログラムの実践

①「意見の共有及び整理・収束練習」では、全10回の取組を通して、互いの意見を効率的に共有できるようになった。また、話し合うテーマに合わせたシンキングツールを自分たちで選んだ上で話し合う経験を通して、意見を効果的に整理する力を伸ばした。

②「タイピング練習」では、結果をその都度振り返りながら、自分なりの目標を持って取り組む中で、着実にタイピングスキルを向上させた。

③「情報モラル学習」では、アプリケーション内の各課題について、自分の事柄として考えながら取り組んだ結果、安全・安心な端末利用に関する知識を獲得することができた。

#### (3) 練習プログラムの検証

「端末活用の学級のルールを作ろう」という議題での話し合い活動を、7月、10月、11月の3回に分けて実施し、児童の成長や変容を見取った。7月の活動は、練習プログラムの実践前期であり、効率的な話し合いにはならなかった。しかし、十分に実践が行われた後の、10月、11月の活動では、使用するシンキングツールを自分たちで考えて、主体的に話し合いに臨む姿が見られた。また、安全な端末利用に関する知識を基にして、じっくり納得いくまで話し合うことを通して、自分たちで学級のルールを策定した。

練習プログラムの実践前後に行った、話し合い活動に関する意識調査アンケートでは、学級全体で、話し合い活動に取り組もうとする意欲の向上が確認できた。練習プログラムの実践が、話し合い活動に対する主体的、積極的な態度にもつながったと考えられる。

### 3 研究のまとめ

三つの内容で構成された練習プログラムを計画的に実践することで、児童はICTを効果的に活用し、効率的に話し合いを進行することができるようになった。また、身に付けた知識や技能を活用して、主体的、積極的に話し合い活動に取り組む姿も見られ、練習プログラムが主体的に合意形成を図る話し合い活動の実現に寄与したと考えられる。

互いの意見を認め合う合意形成の根幹には、学級の支持的風土の醸成が大きく関わっている。よりよい学級集団作りや、学級への所属感を高める活動にも、ICTを効果的に取り入れられるような実践を目指して、今後も研究していきたい。